

私立大学図書館協会 2015 年度第 3 回国際図書館協力委員会議事要録

日 時： 2015 年 10 月 14 日（水）14：00～17：00
場 所： 中京大学 名古屋キャンパス 11 号館 8 階第一会議室
出席者： 工藤晶子（学習院大学）、 坐間礼子（桜美林大学）、
齋藤道子（同志社大学）、 渡辺英二（中京大学）、
井口紀子（福岡大学）、 舘田鶴子（委員長・慶應義塾大学）
会長校： 千葉信一、 布施賢治（東洋大学）
事務局： 吉沢亜季子（慶應義塾大学）
配布資料：

1. 2015 年度第 2 回国際図書館協力委員会議事要録
2. 2015 年度第 1 回東西合同役員会、第 76 回総会・研究大会報告関連
3. 寄贈資料搬送事業
4. 海外派遣研修
5. 海外認定研修
6. 海外集合研修
7. 国際図書館協力シンポジウム
8. 国際図書館協力基金への支援依頼
9. 事業費出納帳
10. スケジュール

議事：

会議に先立ち、第 2 回国際図書館協力委員会議事要録の確認があった。（資料 1）

報告事項：

1. 2015 年度第 1 回東西合同役員会、第 76 回総会・研究大会報告（資料 2）
8 月 27 日に明治学院大学にて行われた東西合同役員会、総会について、当委員会
で提出した報告事項の確認と出席者からの意見の説明があった。研究大会では、
2014 年度海外集合研修の報告があった。東西合同役員会での特記事項は次の通り。
・集合研修 2015 年度は今後の集合研修のあり方を検討する期間に充てることと
し、実施しないことについて承認された。（予算は計上されている。）
・協力基金 特別会計の事業支援費や繰越金があることから企業への支援依頼の
中止を提案したが、実施事業との関係や寄付企業側の事情（既に予算
計上されている等）で継続を前提に委員会へ持ち帰ることとなった。
2. 2015 年度各事業進捗状況
 - （1）寄贈資料搬送事業（資料 3）
2015 年度第 1 回は国際大学、専修大学、杏林大学からの応募があり、支払は完了
している。3 大学で 196,245 円。第 2 回の締切りは、2015 年 12 月 18 日である。
 - （2）海外派遣研修（資料 4）
2016 年度の募集は、8 月 20 日付けの文書で行い 10 月 30 日が締切りとなっている。
モータンソンセンターの締切りは 12 月 1 日であるため、再募集を行う場合には
11 月中旬、少なくとも下旬には参加申込書の提出が必要となる。今回は、委員長
宛てにモータンソンセンターから送信されたチラシを HP からリンクした。なお、
2015 年度派遣の早稲田大学藤氏からの報告書は、10 月末に提出される予定である。
 - （3）海外認定研修（資料 5）
2015 年度の募集は、8 月 20 日付けの文書で行い一次締切りは 10 月 30 日、二次締
切りは 2016 年 2 月 29 日となっている。作成したチラシは、HP からリンクした。

審議事項：

1. 海外集合研修について（資料6）

第2回当委員会と8月に行われた東西合同役員会の意見を受け、今後の海外集合研修のあり方について検討することとなり、以下の意見交換があった。

(1) 過去の集合研修（資料6-1～9）

・参加人数と費用について

毎年5名前後、直近2年は3名の参加人数である。経費は100万円～200万円程度で、年度予算は160万円計上されている。研修の参加者からは有意義であったとの報告はあるが、参加の人数からみても費用対効果の面で有効とはいえない。事業支援費は、加盟館に広く還元されるべきではないか。

・スケジュールについて

毎年、事前の調整に大変苦労してきた。委員会のメンバーが同行しない状況で、予定していた訪問をキャンセルしたケースもあり（交通事情等による）、企画の責任については以前から検討すべきとの意見があった。また、既に決められた行程で参加するため、参加者の自主性が反映されにくいとの指摘があった。

(2) 図書館総合展運営委員会の「ALA・米国図書館研修」（資料6-10）

第2回当委員会で回覧資料となった「ALA・米国図書館研修(7日間)」について、企画協力の図書館総合展運営委員会と当委員会事務局で懇談の機会(10/7)があった。事務局より資料に基づき内容の説明があり、委員からの意見は以下の通り。

- ・2012年に図書館総合展運営委員会とALAで覚書を交わし、これまで3回の実績がありセッションへの参加も可能なことから、研修としては成り立つと思う。
- ・7日間という手ごろな期間で、ALAへの訪問に加え幾つかの図書館見学もあり充実した企画であるという印象を受ける。通訳や旅行代理店の添乗員付きで、安心・安全が確保されているのが良い。ホテルや交通のトラブルも避けられる。
- ・一大学や個人では行くことが難しいため、このような企画はぜひ利用したい。
- ・協会として企業に対しての「中立」な立場を考えると、協賛は難しいが広報は行えると思う。加盟館の参加者に一部補助金を出して支援する方法はどうか。
- ・これまでの「海外集合研修」にかわるものではなく、「海外認定研修」を拡大して運用するのはよい。協会が推奨する研修として、現在の補助額の個人5万円から10万円に引き上げるなどの方法が考えられる。その際は予算の変更が伴う。
- ・「海外集合研修」はこれまで委員会で独自に企画していたため、過去の経緯からしても外部団体主催による研修は「海外認定研修」としたほうが良いであろう。
- ・研修に参加する大学を増やし、事業支援費を有効に支出できる方法を考えたい。

(3) 今後の集合研修

今後の方針を以下のように確認した。

- ・これまで行ってきた「海外集合研修」は、今後、委員会での企画を取りやめる。
- ・より多くの大学に研修の機会が広がるよう「海外認定研修」を拡大する。
- ・2016年度は、成果の実績が確認されている図書館総合展運営委員会(JCC)による「ALA・米国図書館研修」を「認定研修の一つ」として試行的に位置付ける。
- ・その際、個人旅行の延長での研修(従来の「認定研修」)よりは内容が精査されていることから、支援については補助金の額を上げて支援することを検討する。

例： A. 個人旅行で得た知見の報告（5万円）

B. 委員会推薦の研修企画への参加報告（10万円）

なお、予算についてはこれまで集合研修に計上していた額(ここ数年160万円)を充当させることとする。したがって例B.であれば、募集人数は16人となる。

2. 国際図書館協力シンポジウムについて（資料7）

集合研修と同様に、第2回当委員会での意見を踏まえ、次回からの具体的な方法について検討することとなり、以下の意見交換があった。

（1）過去のシンポジウム

・参加人数と費用について

参加人数は開催場所や時期により差があるものの、企業や開催側の関係者を除くと20～50名程である。経費は150万円～200万円程度で、開催年度（約2年に一度）に195万円の予算が計上されている。企画された内容としては有意義なシンポジウムではあるが、集合研修同様に費用対効果の面で有効とはいえない。継続するのであれば、より多くの加盟館が参加できるように設定すべきである。

・企画について

集合研修と同様に、委員会の事務的な負担が大きい。通常二年任期の二年目に開催しており、準備に一年以上かけている状況である。本事業の中止も選択肢として検討するが、開催する場合はこれまでの問題点を改善する方法で行う。

（2）今後のシンポジウム

今後の方針を以下のように確認した。

- ・次回は、試行的に2016年8月に行われる「私立大学図書館協会総会・研究大会」のスケジュールに組み込む形で実施できないか検討する。委員会では講演者の手配はこれまでと同様に必要となるが、会場の準備や集客の問題は解消される。→会議後の確認：会長校から会場担当校である上智大学の担当者へ確認したところ、次年度のテーマに即した内容であれば講演の時間を割くことは可能である旨の連絡があった。2016年度大会のメインテーマは、「大学図書館運営を考える－今求められる図書館員の資質をキーワードとして」である。
- ・海外特に北米において日本研究を支援する司書へ、彼らの仕事についての紹介を講演依頼してはどうかとの案が出た。委員の賛同を得て打診することになった。

3. 国際図書館協力基金への支援依頼（資料8）

第2回当委員会で、2015年度は概して事業縮小となっているため基金への依頼は行わないことを確認したが、報告事項1.により引き続き実施することとなった。過去の支援企業のリストを参考に依頼を行う。これまで、各企業に担当校を決め委員が手渡しや郵送を行っていた経緯があるが、基本的には事務局からまとめて依頼する。支援企業の担当者と日頃から交流のある大学があれば、個別に手渡し等で依頼をお願いしたい。紀伊國屋書店、丸善、雄松堂、キャリアパワーの4社は、研究助成基金と共通の企業であるため会長校から依頼することとなった。

4. その他

（1）国際図書館協力委員会「事業費」執行状況（資料9）

2015年度海外派遣研修の費用を支出し、現在の残金は利息を含み339,552円。国際図書館協力特別会計（事業費）の中間決算（及び決算報告書）会計処理について、会長校より11月13日締め、11月20日提出との連絡を受けている。

（2）今後のスケジュールについて（資料10）

回りの会議は2月下旬頃を候補日として、学習院大学（予定）にて行う。

以上